

目次



提言の要約	P 1
1. はじめに	P 2
2. 農業の現状	P 2
(1) 農業所得の低迷	
(2) 高齢化・後継者不足等による農家戸数の減少	
(3) 遊休農地の増加	
(4) 美しい農村景観の保全	
3. 消費者アンケート	P 4
4. 先進地事例	P 5
(1) 有限会社 耕谷アグリサービス	
(2) 農事組合法人 伊賀の里モクモク手づくりファーム	
(3) 農家の台所 くにとちファーム	
5. 課題設定	P 6
6. 政策提言	P 7
(1) 農地の利用集積と担い手の育成	
(2) 農業を核とした6次産業化の推進	
(3) 都市と農村との交流	
(4) 環境に配慮した農業・農村づくりの推進	
(5) 食農教育の推進	
7. おわりに	P 14



【 提 言 の 要 約 】

新たな農村社会の形成を目指して ～農業活き生き元気村づくり～

現 状

- 現在、日本の食料自給率の低下、農業所得の大幅な減少により農業は衰退してきている。
- 高齢化・後継者不足等の問題により、農村社会に活力がない。
- 遊休農地の増加、非効率な農地利用で農業生産力の低下が著しい。
- 美しい農村環境が失われつつある。

目 標

農業の活性化は、命と健康及び環境を守り、また伝統文化を受け継ぎ、地域経済の発展の基礎となるものであるため、農業を核とした新たな農村社会の形成を目指す。

課 題

① 農業所得の低迷

農産物価格が下落傾向をたどる中、どのようにして生産コストの削減を図り、農産物の付加価値をつけて農業所得の向上を目指すか。

② 高齢化・後継者不足等の問題による農家戸数の減少

農業者の育成は遅れ、離農者は多く、新規就農者数は少ない中、どのようにして人材を確保していくのか。

③ 遊休農地の増加

非効率な農地利用により生産性が低く、遊休農地も増加してきている。農地の有効利用をどう進めていくのか。

④ 美しい農村景観の保全

農業生産基盤の維持・強化と合わせ、環境にやさしい農業への取り組み及び美しい農村景観を守る取り組みをどう進めていくのか。

施 策 提 言

『農業活き生き元気村』の設立

- 【提言1】 農地の利用集積と担い手の育成
- 【提言2】 農業を核とした6次産業化の推進
- 【提言3】 都市と農村との交流
- 【提言4】 環境に配慮した農業・農村づくりの推進
- 【提言5】 食農教育の推進

効 果

- 農地を集積することにより、大型機械等の導入ができ、作業効率上がり、生産コストを削減できる。
- 農・商・工との連携により、農産物の付加価値をつけることにより、農業所得の向上が見込まれる。
- 農業体験により、農業の良さを知ってもらい、Uターンにつなげていく。
- 生物が生息できる環境を整備することにより、品質の良い安全・安心な農産物の生産ができる。
- 食農教育を通じ、「食育」を学び、心と健康の豊かさにつなげていく。